

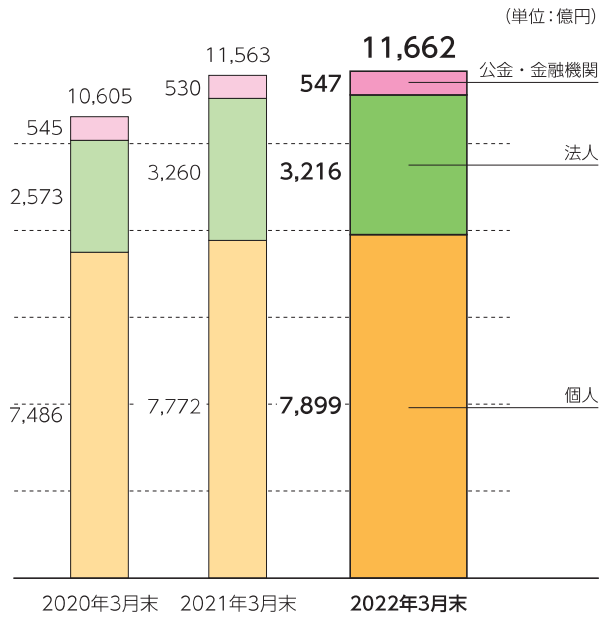
業績ハイライト

ここでは、主要な項目についてご説明いたします。詳細な計数資料等につきましては、当金庫のホームページに掲載している「資料編」をご覧ください。

預金残高 (譲渡性預金含む)

1兆1,662 億円

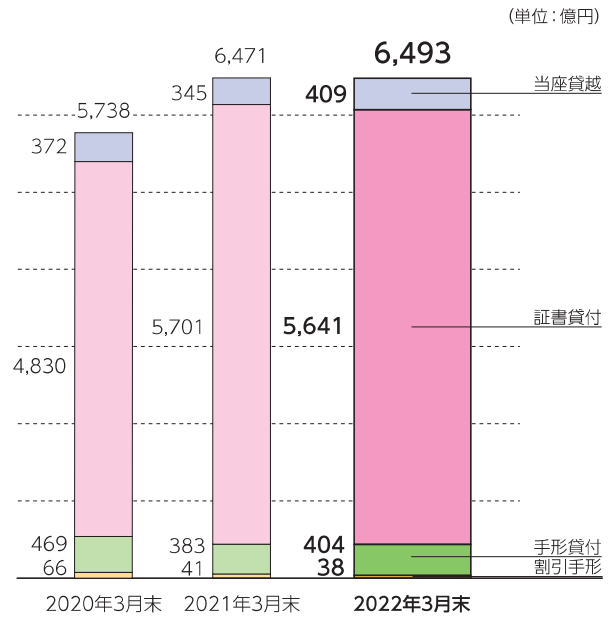
期末残高は、前期末に比べ99億円増加の1兆1,662億円となりました。



貸出金残高

6,493 億円

期末残高は、前期末に比べ21億円増加の6,493億円となりました。

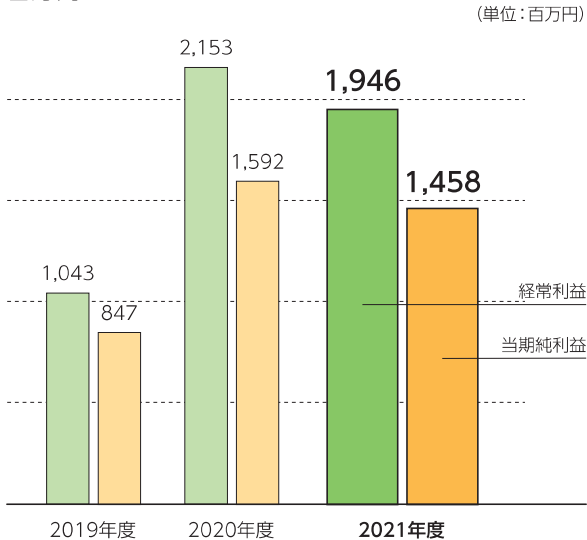


損益の状況

経常利益 **19億46** 百万円

当期純利益 **14億58** 百万円

経常利益は前期比2億7百万円減少し19億46百万円、当期純利益は前期比1億34百万円減少し14億58百万円となりました。

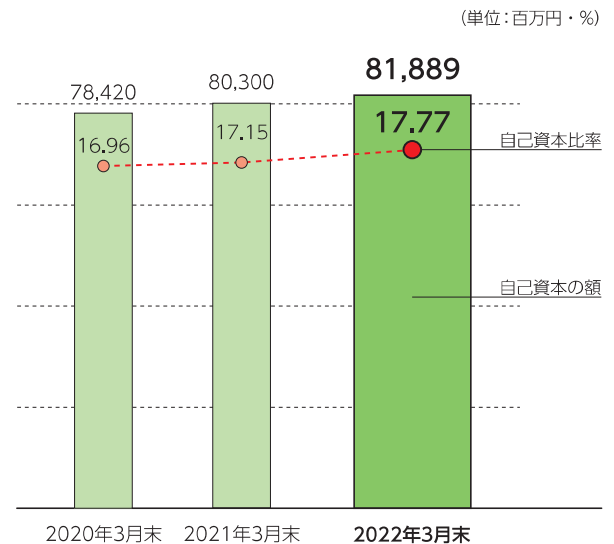


自己資本の額・自己資本比率

自己資本の額 **818** 億円

自己資本比率 **17.77** %

自己資本の額は818億円、自己資本比率は17.77%となりました。



適正な資産の自己査定に基づく償却・引当等を実施し、
資産の健全化を進めております。

不良債権額及び不良債権比率（金融再生法基準）

不良債権比率 **1.62%**
 保全率 **88.97%**
 引当率 **73.39%**
 実質の不良債権割合 **0.17%**

※実質の不良債権割合 = (不良債権額 - 保全額) ÷ 総与信額

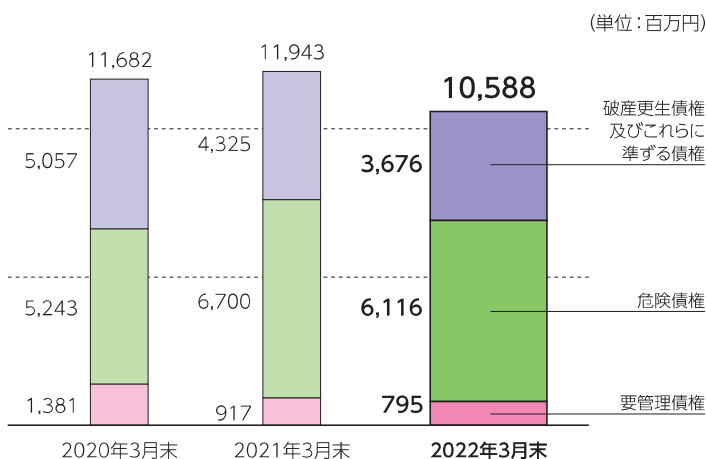
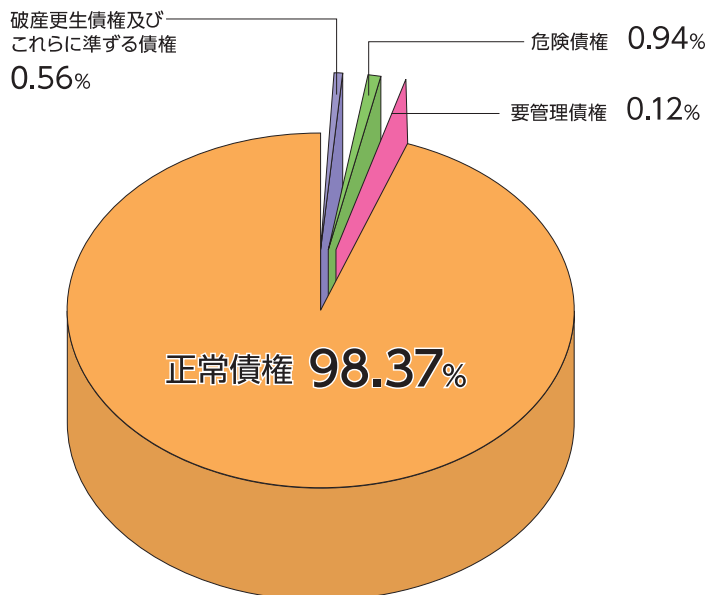
『金融機能の再生のための緊急措置に関する法律』（金融再生法）に基づく開示債権の状況について、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」「危険債権」「要管理債権」の不良債権額は105億88百万円で、不良債権比率は1.62%となりました。

この開示債権は、全てが回収不能な債権ではなく、このうち担保・保証等で62億円、さらに貸倒引当金で32億20百万円が保全されております。結果、未保全額は11億67百万円となっております。

実質の不良債権が、総与信に占める割合は0.17%と引き続き低率を維持しております。

また、会員勘定は811億59百万円で資産の健全性維持に対する備えは十分にできております。

今後とも、お取引先の経営改善・再生支援に努め、資産内容の一層の健全化を図ってまいります。



金融再生法開示債権の推移

(単位: 百万円)

区分	2020年3月末	2021年3月末	2022年3月末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	5,057	4,325	3,676
危険債権	5,243	6,700	6,116
要管理債権	1,381	917	795
不良債権額	11,682	11,943	10,588
正常債権	563,074	636,306	639,917
合計	574,756	648,249	650,506
不良債権比率	2.03%	1.84%	1.62%

※当金庫は部分直接償却を採用しておりません(ただし、合併により引き継いだ一部貸出金を除く)。

※百万円未満は切り捨て、小数点第3位を切り捨てて表示しております。

※過年度のディスクロージャー誌において記載しておりました「正常債権」及び「合計」欄の計数に誤りがあったことから、訂正後の計数を記載しております。なお、訂正前の計数は以下のとおりであります。

2020年3月末: 正常債権 562,886百万円、合計 574,568百万円 2021年3月末: 正常債権 636,104百万円、合計 648,047百万円